天城 昭和の森

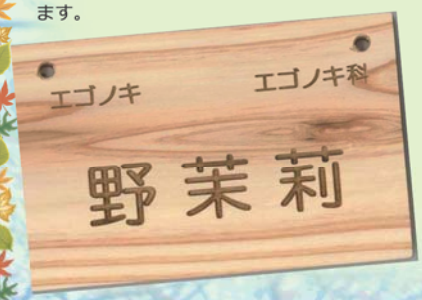
天然の森を歩こう（野鳥の森）

八丁池口から八丁池にかけての野鳥の森には、ブナを主体とした天然林が残り、ヒメシャラやカエデ類の広葉樹に、モミ・ツガなどの針葉樹が混成しています。天然の森の豊かさをご覧になってください。

エゴノキ（野茉莉）

エゴノキは全国の山地に生えるエゴノキ科の落葉小高木です。５月の後半から６月にかけて、白い小さな花を枝先にたくさんつけます。花はすべて下向きに垂れ下がるため、下から見上げる形でとても美しい花ですが、花期が短いためすぐに散ってしまうのが残念です。

実の皮や根にはサポニンという有毒物質を含んでおり、その味が「えぐい」ので、エゴノキと名前がついたといわれます。これを利用して、魚を麻痺させて採取する漁法があるそうですが、現在では禁止されています。



オオモミジ（大紅葉）

オオモミジは本州から九州の山地に生えるカエデ科の落葉高木です。葉は手のひら状に７～９列し、イロハモミジによく似ていますが、葉っぱがやや大きく、イロハモミジよりも若干標高の高い山地に分布します。秋には黄色～赤に紅葉し、日当たりの状態などによって色づき方が違うようです。

イロハモミジ（以呂波紅葉）

イロハモミジは福島県以西の本州から九州の低山地に分布するカエデ科の落葉小高木です。タカオカエデ、イロハカエデとも呼ばれ、庭園などに植えられるもっとも代表的な紅葉の美しいもみじです。葉は手のひら状に５～９裂し、この裂片を「いろはにほ」と数えたことから以呂波紅葉と名付けられました。ところで、イロハモミジとイロハカエデは同じものをさします。カエデ科の植物で紅葉（モミジ）することから、カエデ＝モミジというわけです。

サラサドウダン（更紗灯台）

サラサドウダンはツツジ科の落葉低木で、ドウダンツツジの仲間ですが、大きな木だと樹高４～５m程になり、ドウダンツツジより大きめの薄紅色の花を枝いっぱいに咲かせます。花の先端に紅色の縦縞があるのが特徴で、これが更紗染め模様を思わせることからこの名がついたとされます。　ドウダンツツジは葉の出る前に花を咲かせますが、サラサドウダンは葉が出そろった後、初夏の６月頃に花を咲かせます。

マメザクラ（豆桜）

マメザクラは、富士山を中心に長野県から千葉県にかけて生える小型のサクラです。花は直径 2cm ほどと小さく、葉もサクラの中では最小です。白～淡紅色の花は４月頃咲きます。富士山麓周辺、特に山梨県では、これを富士桜と呼んで県花にも指定されています。

アセビ（馬酔木）

アセビは宮城県以南に分布するツツジ科アセビ属の常緑低木です。３月から４月に、ドウダンツツジに似た白い壺状の小さな花を房状に連ねて咲かせます。茎や葉にアセボトキシンという有毒成分が含まれているため、馬などが食べると酔っぱらったようにふらつくことから馬酔木の字が当てられたといいます。

万葉名は「あしび」。万葉集などにも歌われています。

アマギツツジ（天城躑躅）

アマギツツジは、ツツジ科の落葉低木ミツバツツジの仲間で、伊豆半島の特産種です。伊豆の天城山に因んで名付けられました。葉が開ききってから開花するため、ツツジの仲間ではもっとも遅く、６月～７月に朱色の花を咲かせます。

ホオノキ（朴の木）

ホオノキは山地に生えるモクレン科の落葉高木です。芳香のある大きな白い花は５月から６月に咲きますが、高い梢の上に咲くので、なかなか花を見ることはできません。材は柔らかいため、下駄や楽器、版画の版木などに使われます。大きな葉っぱが特徴で、この枯れた葉っぱに山菜や味噌をのせて炭火で焼く飛騨・高山の郷土料理・朴葉味噌は有名です。